

令和4年3月10日

第2回薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ

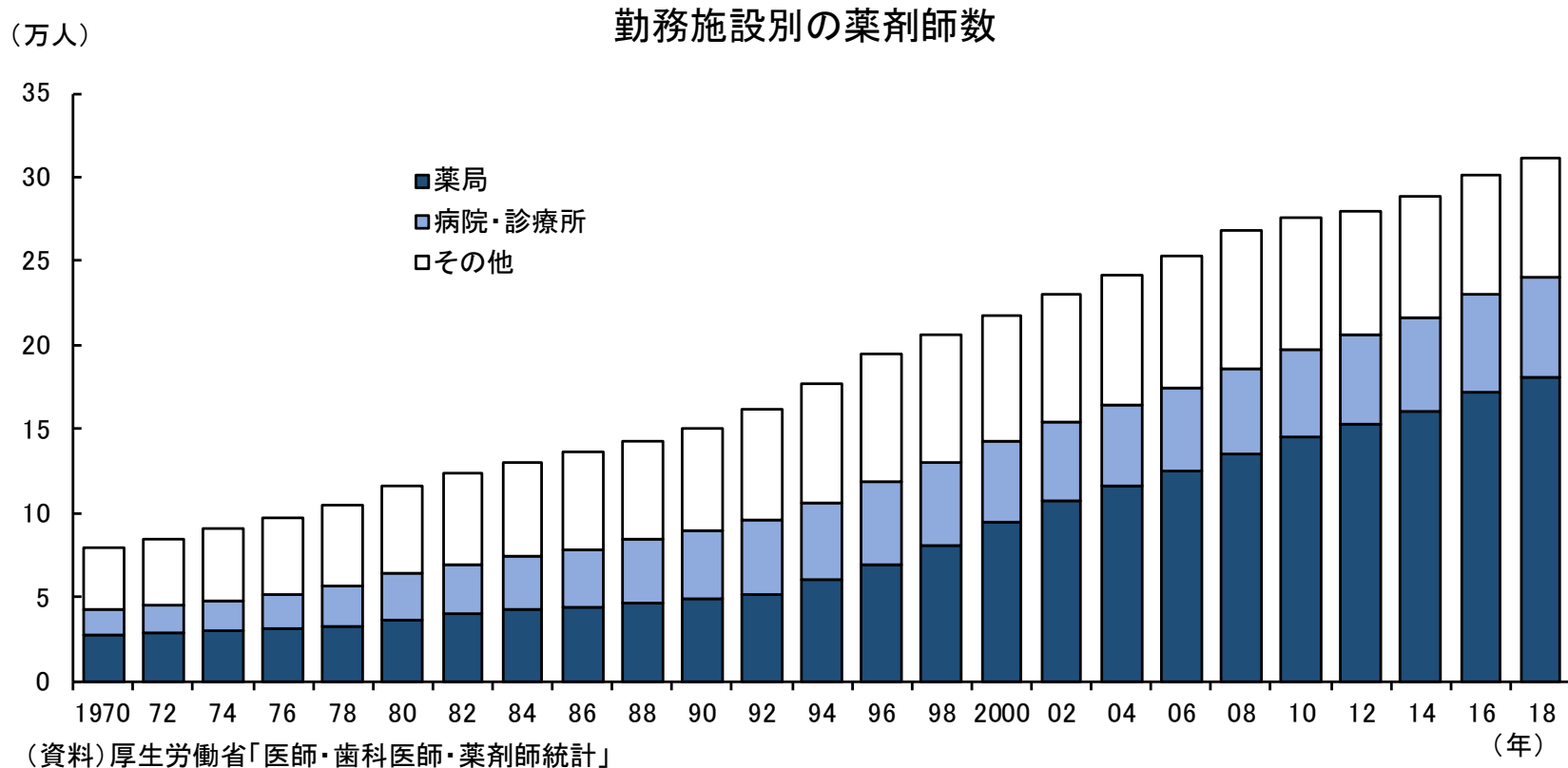
資料2-5

# デジタルを用いた多職種連携強化と 薬局薬剤師に期待される役割 ～イギリスの事例を参考に～

株式会社日本総合研究所  
調査部 副主任研究員  
成瀬 道紀

## わが国の薬剤師数

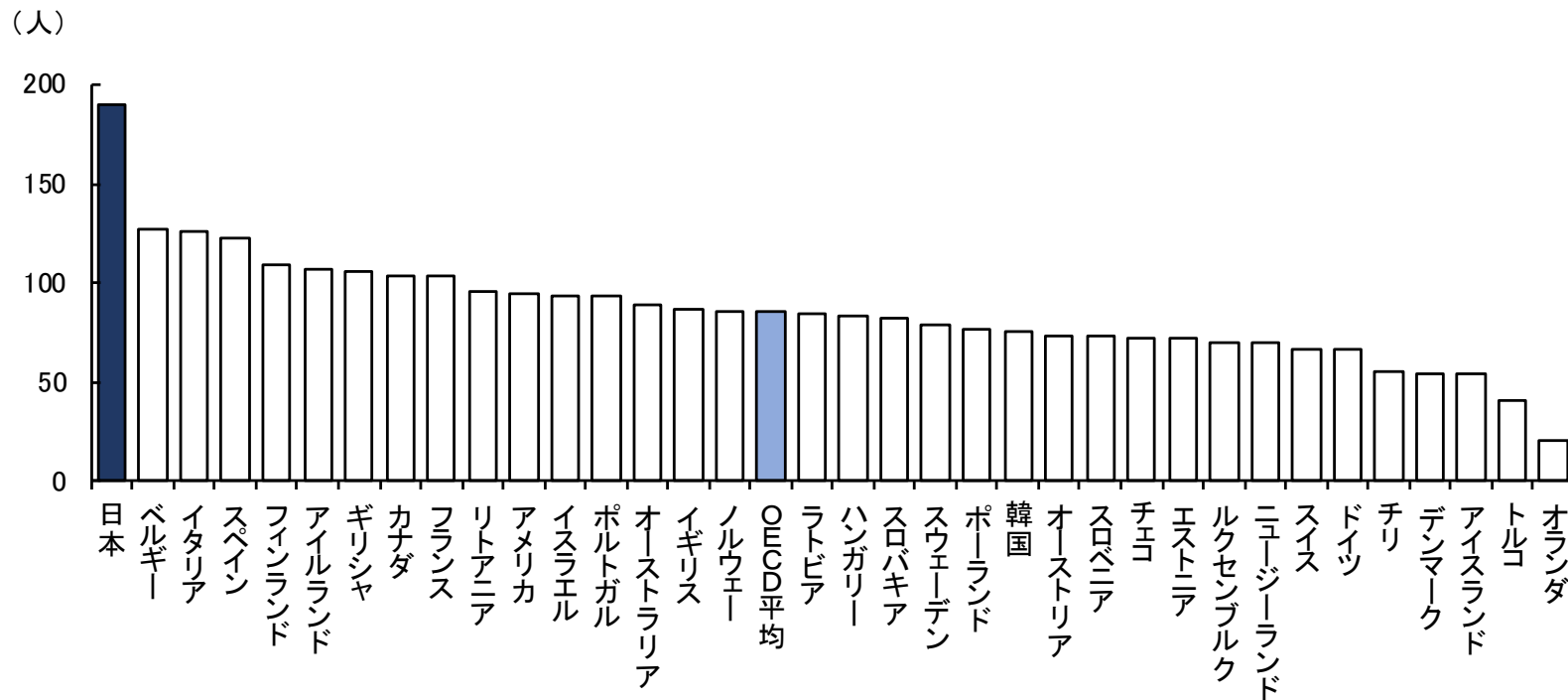
- **薬剤師は31万人、薬局薬剤師は18万人**に増加(2018年)。  
 (参考: 医師数33万人、診療所医師数10万人)  
 ⇒プライマリ・ケアの薬物療法において薬剤師は中核的役割が期待。



## 薬剤師数の国際比較

- わが国の人口当たりの**薬剤師数**は国際的にみて**突出して多い**。  
 ⇒ 薬剤師を有効活用する意義はわが国こそ極めて大きい。

人口10万人当たりの薬剤師数(2019年)

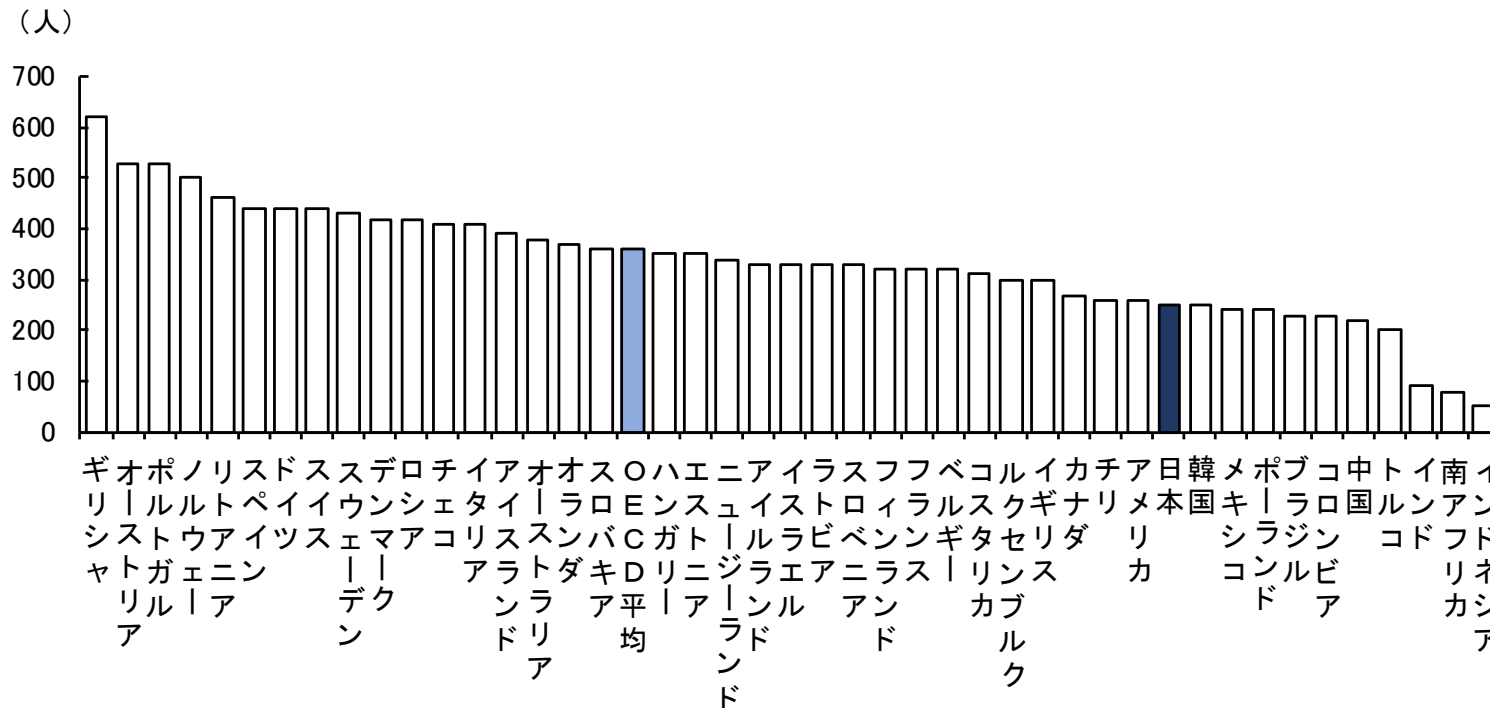


(資料) OECD「Health at a Glance 2021 OECD INDICATORS」

## 医師数の国際比較

- 一方、わが国の人口当たりの**医師数**は比較的**少ない**。  
⇒医師の長時間労働などが課題。

人口10万人当たりの医師数(2019年)

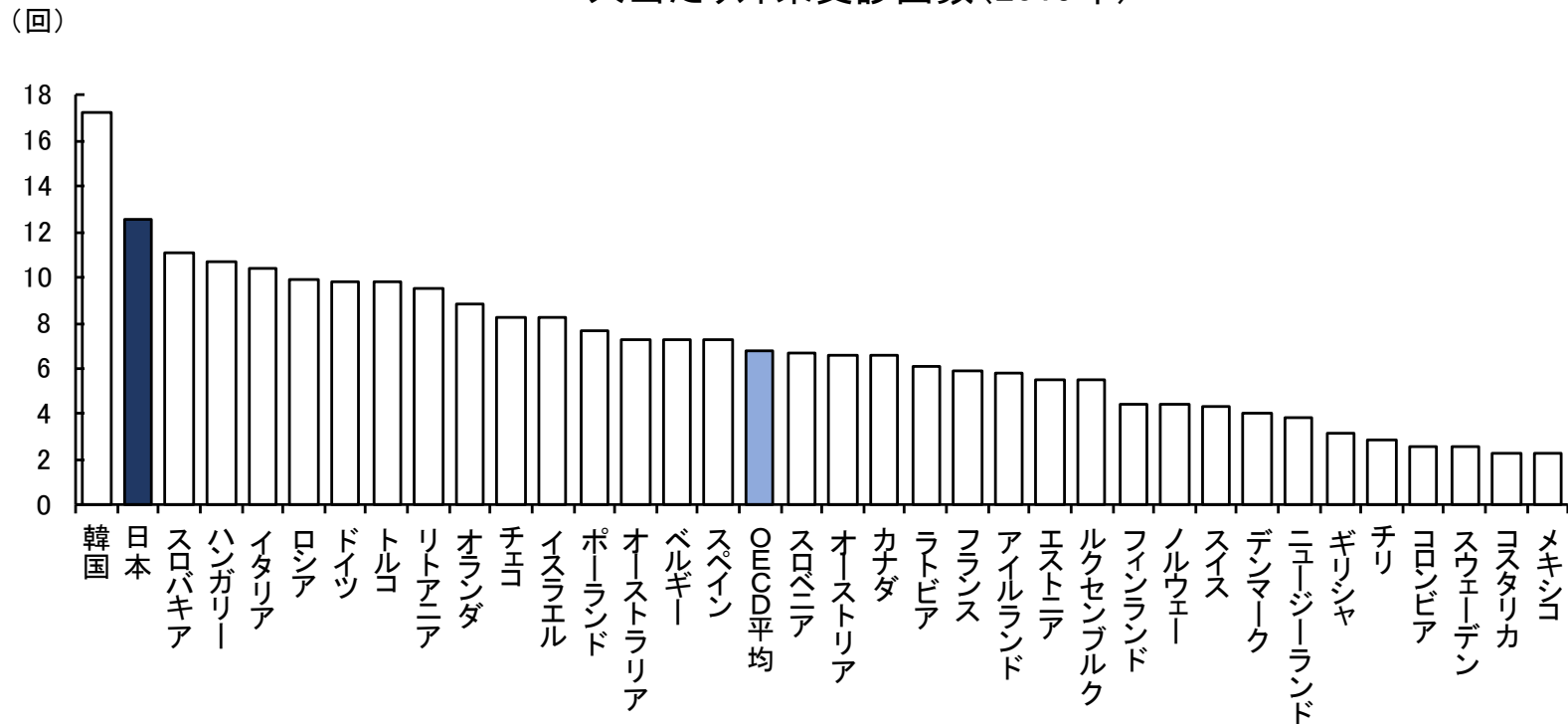


(資料) OECD「Health at a Glance 2021 OECD INDICATORS」

## 外来受診回数の国際比較

- わが国の**外来受診回数**は韓国に次いで**多い**。  
 ⇒薬局で対処できる症状でも医療機関を受診している可能性。  
 薬局薬剤師の更なる活躍で医師の負担軽減も期待。

一人当たり外来受診回数(2019年)



(資料) OECD「Health at a Glance 2021 OECD INDICATORS」

## 薬局薬剤師の医療機関の薬剤師との対比

- 医師と別の組織に属するため、データ共有含め密な連携が困難。  
 ⇒ 役割・機能の拡大や対人業務強化の阻害要因に

薬局薬剤師と医療機関の薬剤師

	薬局薬剤師	医療機関の薬剤師
勤務先	薬局 (処方医と異なる)	医療機関 (処方医と同じ)
医師からの情報入手手段	主に処方箋 (通常、病名・検査値なし)	電子カルテなど (詳細なデータを入手可能)
医師への情報伝達手段	主に疑義照会 (その他の用件では連絡しにくい)	院内カンファレンス、処方提案など (密なコミュニケーションが可能)

(資料) 日本総合研究所

## 今回イギリスを参照する理由

- イギリスでは、従来薬局薬剤師が十分活用されていない（underutilized resource）との認識が広く持たれていた。
- GP（総合診療医、家庭医）への負担軽減含め、NHS（イギリスの公的医療制度）を持続可能にするためには、薬局薬剤師がより臨床的なサービスを提供し、その能力を最大限に発揮することが不可欠とされた。
- 薬局薬剤師がより臨床的な役割を果たすうえで、薬局薬剤師がプライマリ・ケアのチームから孤立していることが障害とされ、その克服に向けて、デジタル基盤の整備をはじめ薬局薬剤師の多職種連携強化に注力。
- 現在では、薬局薬剤師が提供するサービスを拡大し、処方箋調剤にとどまらない幅広いサービスの提供を実現。

## イギリスの取り組み(多職種連携強化①ITツールの活用)

- ITツールを、薬局薬剤師の多職種連携に積極活用。

イギリスで薬局薬剤師の多職種連携に寄与しているITツール

ITツール	特徴
電子処方箋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHSの中央サーバー(Spine)でデータ管理</li> <li>・事前登録、またはトークン(紙のバーコード)を持ち込むことで処方箋を閲覧・処理する薬局を特定</li> <li>・2005年導入。普及率90%(2018年時点)。</li> </ul> ⇒タイムリーな情報共有、効率化による対人業務へ割ける時間の増加などの効果。
Summary Care Record (SCR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHSの中央サーバー(Spine)でデータ管理。</li> <li>・GP(総合診療医、家庭医)がデータを整備。</li> <li>・2016年から薬局薬剤師にSCRへのアクセス権限。(共有されるデータの内容)</li> </ul> ①基本情報:薬歴・アレルギー・副作用 ②追加情報:投薬の理由・診断内容・ワクチン接種情報など
NHS mail	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる組織に属する医療従事者間のメールサービス。</li> <li>・セキュリティが確保され患者データも伝達可能。</li> </ul>

(資料)Pharmaceutical Services Negotiating Committee、NHS Digital、OECDより日本総合研究所作成



## イギリスの取り組み(多職種連携強化②人的交流の促進)

- 多職種連携強化に向け、人的交流の促進にも意識的に取り組み。

(具体例)Walk in my Shoesプロジェクト

- ✓ ロンドンレイシャム区のClinical Commissioning Group(CCG)が2015年に実施。
- ✓ 診療所のGPと薬局薬剤師などが相手の職場を訪問し、相互理解を深めた。
- ✓ 域内全ての診療所(42カ所)と79%の薬局(45カ所)が参加。
- ✓ Pharmaceutical Services Negotiating Committee(PSNC)がその効果をとりとめたうえ、各種ツールを公表し、他の地区に横展開。

## イギリスの取り組み(薬局薬剤師の役割の拡大①軽症患者への対応)

### ○セルフケアのサポート

- ✓ OTC医薬品の販売などセルフメディケーションの支援。  
⇒セルフメディケーションが広く浸透している点がわが国と相違。

その背景は、

- 軽症ではすぐにGPを受診しにくい(GPは重症患者を優先)。
- GPを受診する方が、OTC医薬品を購入するより自己負担が小さくなる逆転現象が起こりにくい(処方薬1品目につき9.35ポンドの自己負担)。

### ○薬局薬剤師相談サービス

- ✓ NHS111(医療の電話相談窓口)、GPから紹介を受けた患者に対して薬局薬剤師が相談。
- ✓ 1回ごとに14ポンドの報酬が発生。

## イギリスの取り組み(薬局薬剤師の役割の拡大②慢性疾患患者への対応)

### ○リフィル処方箋

- ✓ 2002年(現行の形は2005年)にリフィル処方箋を導入。
- ✓ GPの報酬が人頭払いが基本なこともあり、現在では広く浸透。  
⇒ 薬局薬剤師の服薬フォローの責任は大きい

### ○新薬サービス

- ✓ 慢性疾患患者に新たな薬が処方された場合に、服薬指導を実施。
- ✓ 2～3週間後に服薬フォローを実施。
- ✓ 1回ごとに20ポンド～28ポンドの報酬が発生。

## イギリスの取り組み(薬局薬剤師の役割の拡大③予防・公衆衛生)

### ○公衆衛生

- ✓ 年6回の健康増進キャンペーンに参加(ポスターの掲示など)。

### ○高血圧症例発見サービス

- ✓ 原則40歳以上の人の血圧を測定・記録。
- ✓ 測定結果に応じて生活習慣の助言やGPへの受診を指示。
- ✓ 通常の高血圧であれば1回ごとに15ポンドの報酬が発生。

### ○禁煙サービス

- ✓ 病院からの紹介で患者の禁煙をサポート。
- ✓ 初回30ポンド、中間回10ポンド、最終回40ポンドの報酬が発生。

### ○C型肝炎検査サービス

- ✓ 検査1回ごとに36ポンドの報酬が発生。

### ○インフルエンザワクチン予防接種サービス

- ✓ 接種1回ごとに9.58ポンドの報酬が発生。

## わが国への示唆(多職種連携強化)

### ○デジタル技術を活用したデータ共有

- ✓ 現在進めているデータヘルス改革によるデータ共有の取り組みは有効。
- ✓ 本来、SCRのような家庭医が整備した患者データの共有が望ましいが、具体的な目途がたっていない状況。
- ✓ まずは、2023年1月に運用開始予定の電子処方箋等で、病名・検査値・処方意図などの有益なデータを共有できるようにすることが有効。

### ○人的交流の促進

- ✓ デジタルだけに頼らず、医師との相互理解の強化や、地域ケア会議への薬局薬剤師の参画などにより、人的交流を促進することが不可欠。
- ✓ 医師をはじめとした他職種が、薬局薬剤師をプライマリ・ケアのチームの一員として認識することが重要。

## わが国への示唆（薬局薬剤師に期待される役割）

### ○軽症患者への対応

✓ セルフメディケーションの推進が最優先。

⇒実現には、医療機関を受診した方が薬局でOTC医薬品を購入するより自己負担が小さいという逆転現象を是正する必要。

### ○慢性疾患への対応

✓ 2022年4月導入予定のリフィル処方箋への期待大。

⇒一般の処方箋にも増して丁寧な対人業務が必要。

### ○予防・公衆衛生

✓ 予防・公衆衛生分野への取り組み強化。費用対効果を十分検証のうえ、同分野の公的医療保険対象サービスの拡充も検討の余地。

## 参考資料:イギリスの薬局のサービス

- CPCF (Community Pharmacy Contractual Framework) という NHS と薬局との契約のフレームワークで、薬局のサービスが定義 (2005年～)。
- 契約上は、全ての薬局が提供する Essential Services、基準を満たして契約した薬局が提供する Advanced Services、NHS の地方組織ごとの独自のサービスである Locally Commissioned Services に分類。

### Essential Services

サービス名	概要
調剤 Dispensing Medicines	処方箋に基づく調剤。服薬指導を実施。調剤や指導の内容は記録に残す。
医療器具の供給 Dispensing Appliances	医療器具の販売。
リフィル処方箋 Repeat Dispensing	リフィル処方箋に基づく調剤。同じ薬が継続的に必要な患者に対して、処方箋を繰り返し利用することで一定期間医師を受診することなく調剤が可能。
退院時医薬支援サービス Discharge Medicines Service	病院・NHSからの紹介を受けた退院後の患者に対して、薬物療法に関するコンサルティングを実施。薬局は入院中のデータなどの連携を受ける。
公衆衛生 Public Health	年6回の健康増進キャンペーンに参加。薬局へのポスターの掲示など。
地域の医療福祉サービスの案内 Signposting	顧客の状況に適した地域の医療や社会福祉のサービスを提供する施設を紹介。
セルフケアのサポート Support for Selfcare	セルフケアを行う患者への助言。OTC医薬品の販売。必要であれば受診を勧奨。
不要な薬の廃棄 Disposal of Unwanted Medicines	患者から不要になった薬を受け取り廃棄。

(資料) Pharmaceutical Services Negotiating Committeeより日本総合研究所作成

## 参考資料：イギリスの薬局のサービス

### Advanced Services

サービス名	概要
医療器具使用レビュー AUR (Appliance Use Review)	特定の医療器具に関して適切な使用方法を指導。
薬局薬剤師相談サービス CPCS (Community Pharmacist Consultation Service)	NHS111やGPなどからの紹介を受けて、薬局薬剤師が軽症の患者へコンサルティングを実施。
新型コロナ検査キット供給サービス C-19 Lateral Flow Device Distribution Service	新型コロナウイルス検査キットを供給。
インフルエンザワクチン接種サービス Flu Vaccination Service	インフルエンザワクチンの予防接種。
C型肝炎検査サービス Hepatitis C Testing Service	C型肝炎の抗体検査を実施。
高血圧症例発見サービス Hypertension Case-Finding Service	原則40歳以上で高血圧の診断を受けていない人の血圧を測定し、助言の実施やGPへの受診を指示。
新薬サービス NMS (New Medicine Service)	慢性疾患患者に新たな薬が処方された場合に、服薬指導を実施。2～3週間後に服薬フォローを実施。
ストーマ器具のカスタマイズ SAC (Stoma Appliance Customisation)	ストーマ(人工肛門)のカスタマイズと使用法の指導。
禁煙サービス Stop Smoking Advanced Service	病院からの紹介で患者の禁煙をサポート。

(資料) Pharmaceutical Services Negotiating Committeeより日本総合研究所作成

※Locally Commissioned Servicesは地域ごとに異なるため割愛。



## 参考資料: 関連論文

- 成瀬道紀[2021a]「電子処方箋の導入に向けた課題—完全電子化を実現し医療サービスの質向上へ貢献を」  
<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=38529>
- 成瀬道紀[2021b]「調剤報酬の国際比較—わが国の技術料・薬価差益は対GDP比で英・独の3倍」  
<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=101539>
- 成瀬道紀[2022予定]「薬局薬剤師のプライマリ・ケアへの取り組み強化に向けて—多職種連携強化と薬剤師の役割の拡大を—」